

武庫川の川づくり

武庫川水系河川整備計画



兵庫県

武庫川のこれからの川づくり

「武庫川水系河川整備計画」で、武庫川の今後 20 年間にわたる「治水」、「利水」、「環境」、「維持管理など」の目標と具体的な整備内容等を定めました。
この計画は、治水と環境の面で、以下のような特徴を有しています。

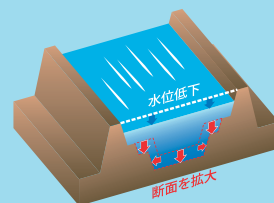
計画の特徴 1

総合的な治水対策

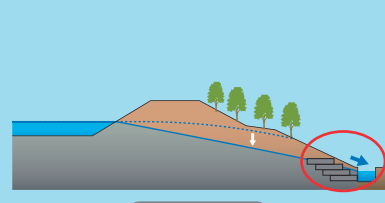
流域全体で防災力の向上をめざし、**河川対策** **流域対策** **減災対策** を 3 本柱とする「総合的な治水対策」を進めます。

総合的な治水対策とは、河道掘削や遊水地整備等を行う **河川対策** に、流域内の施設に雨水を貯める **流域対策**、避難対策など水害が発生した場合でも被害を小さくする **減災対策** を組み合わせ、流域全体で防災力の向上を目指す取り組みです。

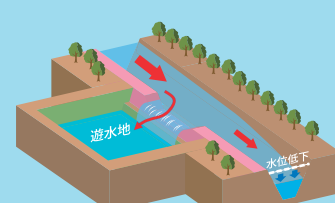
河道を掘り下げて断面を広げる河道掘削等の河川工事や、遊水地の整備等により、洪水時の川の水位を下げたり、水量を減少させたりして、洪水を安全に流します。



河道掘削



堤防強化



遊水地整備



青野ダム活用

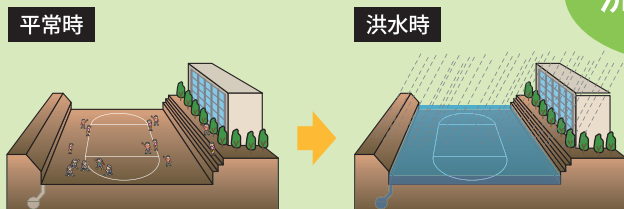
河川対策

流域対策

減災対策

総合的な治水対策

学校の校庭・公園・ため池などに雨水を一時的に貯めて流域からの流出量を減らします。



校庭貯留

計画規模を上回る洪水など想定を超える事態においても、人命を守り、被害を小さくする減災対策を進めます。



河川の防災情報を知らせるイメージ

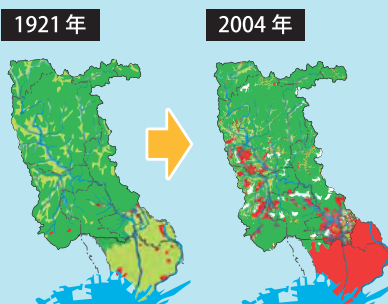
●総合的な治水対策はどうして必要なの？

これまでの治水対策は、河道掘削やダム・遊水地の整備等の **河川対策** を進めてきました。

しかし、右のような課題に対応するため、これまで進めてきた **河川対策** に加え、**流域対策** や **減災対策** を含めた、総合的な治水対策が必要です。

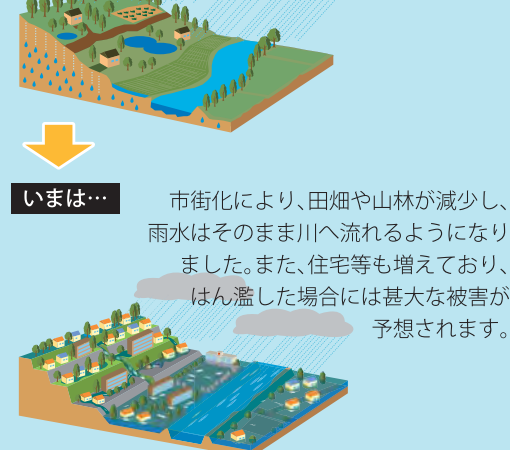
課題 1 市街化の進展による流域の保水・貯留能力の低下及び低平地への人口・資産の集積

昔の武庫川流域は、ほとんどが田畑や山林でしたが、今では、市街化が進展しています。



凡例
山地 農地 宅地 ゴルフ場等

むかしは… 雨水は、田畑や山林に浸透していました。また、はん濫による住宅等の被害は小規模でした。



課題 2 集中豪雨の多発

近年、地球温暖化に伴う気候変化等に起因して集中豪雨が多発する傾向にあり、洪水被害の危険性が増大しています。



平成 21 年 8 月 佐用川



平成 16 年台風 23 号(豊岡市)

計画の特徴 2

環境の「2つの原則」

生物多様性を保全するため、河川工事を行う際には環境の「2つの原則」を守ります。

環境の「2つの原則」の適用にあたっては、原則 1 の「流域内で種の絶滅を招かない」では、個体数でなく種の保全に着目し、原則 2 の「流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する」では、水系内で相対的に良好な状態にある場所を客観的な手法により特定し、その範囲を総量として定量化しました。

その上で、河川工事による影響を評価し、工事後もその総量を維持できるよう具体的な対策を実施することにより、武庫川を特徴づける多種多様な動植物が今後も生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生に努めることとしています。

このような取り組みは、これまでの河川工事では行われていなかった全国で初めての取り組みです。

自然環境の保全

原則 1 流域内で種の絶滅を招かない

個体数ではなく種の保全に着目



▲カネヒラ



▲カタハガイ



トゲナベバタムシ▲



▲カワラサイコ

武庫川に生息・生育する貴重種の例

原則 2 流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する

優れた空間を維持することで間接的に種の絶滅リスクを軽減



全県的にも生物多様性が高い武庫川上流の優れた「生物の生活空間」

●「2つの原則」だけで武庫川の自然環境は良くなるの？

自然環境の改善

配慮を検討すべき「生物の生活空間」を改善する



既設床止工に魚道等を設置し、魚類等の移動阻害を改善した事例(三田市)

武庫川の自然環境をより良いものにするため、良い空間（優れた「生物の生活空間」）を保全することに加え、改善が必要な空間（配慮を検討すべき「生物の生活空間」）を抽出し、環境改善を効果的に行うこととしています。